



特集

イケメンスペシャリストに迫る!

# 浜松がモテるワケ

各分野で活躍する浜松の男子たちの共通項。

それは、“夢に向かうブレない心”と“決してあきらめない強い心”。

こうした心と卓越した技を持つ男、それが、浜松のイケメンスペシャリストだ。

肉食系イケメンスペシャリストが創り出すハートフルな「浜松の魅力」を

アナタの心にお届けしたい。



# オートバイと共に

“バイクのふるさと”浜松市には、全国各地を廻り、  
オートバイの優位性や楽しさを語り、  
ライダー達のマナーアップを呼びかけ、  
オートバイ普及のために活動している人がいる。  
かつてヤマハYZR500を駆り、  
日本にロードレースという存在を知らしめた人。  
映画「汚れた英雄」で主人公のスタントを行い、  
男性化粧品のCMで、  
当時のお茶の間を魅了した「男前」。  
あの、平忠彦さんだ。



タイラレーシング代表 平 忠彦

「24歳でヤマハ発動機と契約をした頃から浜松で暮らしています。引退後にオートバイパーツの販売会社を設立し、住みなれた浜松を第2の人生の拠点としました」。

現在は全日本ロードレース選手権に、YSPレーシングチーム・ウィズ・TRCのチーム代表としてレースに参戦する傍ら、国内4社のオートバイメーカーで開設したNMCA日本二輪車協会から「バイク親善大使」を任命され、全国各地で開催されるオートバイイベントへの出演

や、ライディング指導を行っている。華麗なる人生を生きていた、映画「汚れた英雄」の主人公とつい重ねてしまいが、平さん自身は派手なことが苦手、曲がったことが嫌いな男。

「全国で知られるようになった時は、さすがに遊びの誘惑もありました。ですが、それよりもオートバイが好きで、プロとして勝たなければならぬことに必死でした。そこには確かに自分の『道』がありましたから、誘惑には負けませんでしたね(笑)」



## PROFILE

平 忠彦 (たいら ただひこ)  
 1956年11月12日生  
 タイラレーシング株式会社 代表取締役社長  
 福島県南相馬市出身  
 元オートバイ・ロードレースライダー



福島県の南相馬市出身。父親の影響でオートバイを知り、いつしかレーサーになることを目標にしていた。19歳でロードレースチームに入り、アルバイトで生活をしながら辛い練習の日々を過ごす。一度目標を決めると完結するまで諦めないという性格が、とてつもない大きな夢を実現させ、10年にわたり第一線で活躍した。しかし、35歳で突然の引退。前年に出場した全日本ロードレースで、最終周回まで2位に4秒差のTOPPを走っていたが残り半周で転倒。100%自分のミスだったことが許せなかった。「レースを始めてから引退するまで、レースでは日本刀の刃の上を走るイメージでコース取りをしていました。プロたるものは常に最高のコンディションで、1位を取るために死に物狂いで走るだけ。それが見せられないのならプロとして通用しません。周囲はまだやれると説得してくれましたが、私の決意は変わりませんでした。」

### オートバイの性能以上に技術を

結果がすべてのロードレースの世界で生きてきた平さん。オートバイの魅力も恐さも知り尽くしたからこそ、オートバイに軽い気持ちで乗ることは、危険と背中合わせだという。「オートバイは本当に素晴らしいもので、安全に考慮して作られています。その一方、慎重さを欠いた乗り方をする、危険な乗り物になるとも言えます。ですが私は、安全に乗るために運転技術を磨くことが、オートバイの魅力の一つだと思っています。オートバイの性能に準じたライディングセンスを身に付ければ、安全でより楽しい。そのためには集中力も必要です。年齢を重ねても衰えない体力作りも必要です。」

### オートバイの素晴らしさの発信

平さんがレーサーとして活躍した当時と比べて、日本の二輪車販売台数は激減しているようだ。「メーカー各社は、二輪免許の制度改革や規制緩和を求めています。二輪業界の人が、それぞれの立場でできることを意識して行動することが大切だと思います。例えば食育と同じ感覚で、若いライダーを育てるために、子どもが安全に試乗できるバイクを用意して「バイク育」という

ようなことができないかと考えています。子どもはなんでも限界を超えると危ないことを身体で覚えます。オートバイはどのくらいのスピードが出るか? どうなったら転倒するか? 安全なスピードはどのくらいか? というように身体で覚え、同時に運転者としての社会責任も教えるのです。」

確かに学校、地域、家庭で、オートバイに理解を示し、ライダーを育てることができればライダー人口はもつと増えるかもしれない。「バイクのふるさと浜松」から、こんな取り組みができれば素晴らしい。「私もいい年齢になりました。これからは、オートバイに乗れる体力を維持しながら、オートバイと共に、いつまでも遊び心を忘れないでいきたいですね。オートバイ業界で生きてきた私が、オートバイの素晴らしさを伝えていくことが、恩返しだと思っています。そしてライダーのマナー向上も発信していきたいですね。オートバイに乗るときは、マナーの大切さも意識してほしいです。例えば休日に家族で出かけた帰り道の渋滞。信号の手前で大きなオートバイが車を追い抜いて停まり、そのライダーが振り返り軽く会釈をしました。まるで「入れてもらってありがとう」「ビックリさせてすみません」そんな声が聞こえてくるような……! ちょっとした気遣いでライダーのセンスがひかるものだと思います。」

浜松が世界に誇るアイコン「オートバイ」。平さんのような素晴らしいライダーも浜松にいます。平さんとともにオートバイライダーのポリシーも世界に発信したい。



タイラレーシング株式会社  
 tel 053-437-2125  
 浜松市中区高丘西1-12-7  
 http://www.tairaracing.co.jp/



タイラ レプリカ  
ヘルメット

52,000円～  
 伝説のライダー、平忠彦モ  
 テルのヘルメット。写真は  
 ジェットヘルタイプ。



現役時代はコースを日本刀の刃の上だ  
 と思い走ったという平さん。  
 写真は1989年鈴鹿世界グランプリ。



現在はYSPレーシングチーム・ウイズ・  
 TRCのチーム代表。

# 釣り文化を輸出



## PROFILE

伊東 由樹 (いとう ゆき)  
メガバス株式会社 代表取締役社長  
静岡県浜松市出身

## メガバス代表 伊東 由樹

「メガバス」。釣り好きを自称する人なら、この名を知らない人はいない。そして、その代表者である伊東由樹という人こそ、

日本の釣り人の中で最も有名な固有名詞であることは間違いない。

スポーツフィッシング界のレジエントが語る、

波乱に満ちた創業までの道のりと、釣り具メーカーとして

釣り場の環境を守る徹底した取り組みを聞く。

メガバスのルアー(疑似餌)はまるで本物の魚のようだ。色(塗装)や形はもちろん、水中を「泳ぐ」姿も生きている小魚そのもの。いくら肉食魚が利口でも、騙されないわけがない。メガバスが作るルアーは子どもからベテラン釣り師まで幅広く人気があり、フルラインナップで商品を手にするのは困難だ。魚のことをよほど知っていないと、この形と動きは表現できないと、多くの釣りは口を揃えて言う。

「実家は浜松の舞阪町という漁師町で釣り宿をやっている、子どもの頃から目の前の海で遊んでいました。同世代の子どもはいなくて、漁師やカキ養殖業を生き業とする大人たち。将来は当たり前のように海洋調査やスキューバダイバーのような、海に関わる仕事をしたいのだと思っていました。多くの若者がそうであるように、中学に入り、友達の影響から音楽に目覚める。何事も徹底的

にやっつけてしまう性格で、メジャー志向の「本気の音楽」を追求した結果、有名なコンテストで多数入賞。高校に入るとその夢は「層膨らみ、卒業後に家出同然の上京、映画館やゲームセンターで寝泊りし、ライブハウスのオーディションを受け、日々が続いた。」自分の将来を心配してくれなかった高校の先生が、光学系メーカーへの就職を進めてくれて、入社することになりました。今でいうフレックス制のようなところで、昼間は何をやっていても自由な部署。先輩達も好きなことに取り組んでいました。職場の環境も仕事内容も楽しかったのですが、2年後にバンドで念願のオーディションに受かり、ついにメジャーデビューのチャンスがき

ました。ところが、会社も退職し、いよいよという時に事務所が閉鎖。メンバー全員が路頭に迷うことに…」。

### 釣りが仕事になる

収入を得る為に、子どもの頃に得意だった釣道具の修理業を始め、釣具店を軒並み営業するが、仕事はなかなか入らない。それなら自分で道具を作ろうと考えた。そして針金と鉛を買い、製作したのが最初のルアー「Vフラット」だ。さらに、製造技術向上のため鋳型屋で修行をさせてもらった。無給だったが、仕事終わりに窯に残った鉛をもらいルアーを製作。そのルアーの売上げが自分の収入になる。月500個の販売を目標に、釣具店を回るが、ルアーフィッシングが今ほどメジャーでない頃、簡単には売れない。「ルアーなんか持ち込まれても困るよ」と釣具店の店主は厳しい反応だった。

売るためにはどうしたらいいのか? 試行錯誤の中、釣り場でブームを作ること考えた。茨城県の霞ヶ浦は、当時から関東の釣り人が多く集まる人気スポット。伊東さんはそこでメディアに取り上げられる戦略を考えた。自ら大物を釣り上げるという作戦だ。「今日も伊東由樹が自作のルアーで大物を釣った」スポーツ新聞が釣りコーナーで連日記事にすると「よく釣れるルアー」と口コミで注文が増える。これがメガバス創業期の逸話だ。以降本場アメリカでの成功や、日本でのルアーフィッシングブームの中、精巧な製品作りで他社に真似がでな



い「本物」が人気商品になるのは当然であつた。

### 釣り場の環境を守る

「環境あつての釣りですから、企業責任としてさまざまな活動に取り組んでいますし、当社ほど環境保護に力を入れている釣り具メーカーはないと自負しています。例えば、関係団体とともに植栽事業を行ったり、釣り人が根がかりで残したルアーやライン（釣り糸）の湖底清掃に取り組んでいます。また、当社のワーム（ルアーの種類）は環境へのダメージを最低限にするため、紫外線とバクテリア（微生物）で分解され、湖底に残らない環境融合型の製品として開発しています。そのワーム「VIOS」は食品メーカーでも取得が難しいとされるアメリカのFDA※認証を取っているというから驚きだ。さらにルアーの材料は全てリサイクル樹脂（ペトボトルや車のバンパー等）、また天然素材の一部は浜松の天竜杉の廃材を使用している。確かにここまで徹底しているのは

メガバスだけだろう。釣り具を開発するメーカーとして、簡単に自然保護を語れるほど甘くないことは十分に分かっているが、やらずにはいられないというのも、企業として、代表者としてのこだわりなのだ。

### 今こそ釣りの楽しさを

「日本の釣り人は、潜在人口で約1千万人とも言われています。市場としては十分です。しかし、近年業界自体が専門性の高いユーザーに対して訴求し、意図的に釣りを難しくしてきました。言い換えればマニアのための事業で収益を上げ、新しいファン作りにあまり目を向けてこなかったのではないかと考えます。それでは業界に将来がありません。釣りに興味があるけれどやったことがなかった人、定年後に時間の余裕ができた人、女性にも子どもにも、釣りの楽しさをさまざまな場面で伝えていくことが重要です。自然を愛する心は育つし、ストレス発散にもなります。奥深さから新たな生

きがいにもなるでしょう。ルアーフィッシングは生餌を使わないし、ルアー専用の管理釣り場も施設が充実していて、入門には丁度いいですから」。

メガバスは元々誰もやらなかったスポーツフィッシングの道具を開発し、釣り方を紹介して、釣り人口を増やしてきた。今後は「質」を見直し、裾野を広げることこそ使命だとしている。

### 浜松から「文化」を世界へ

「私は浜松にこだわっています。「ものづくり」で成長してきたこの浜松の地で、当社の「ものづくり」を極めたいのです。現在約20カ国に製品を輸出しています。さらに世界各国に展開したい。しかし単純にグローバル展開したいということであれば、海外に拠点を置いた方が賢いのは誰でも分かっています。現在のレポートなら本場のアメリカから大量にオーダーをもらっても、採算が合いませんから。しかし、それでは日本人がこの地で作っているが故に生まれた「魂」がなくなってしまうのではないかと危惧しています。メガバスがこだわらる「釣り」という文化にブレキをかけてしまふのと同じです」。

日本から、浜松から、メイドインジャパンの「釣り」を文化ごと輸出したいという伊東さん。ストイックなまでのポリシーは、自らがスポーツフィッシングのパイオニアであるという自覚と責任を背負っているのだと感じた。

※FDA (Food and Drug Administration) …日本の厚生労働省にあたるアメリカ合衆国の政府機関、食品医薬品局。



メガバス株式会社

tel 053-431-0777 (代)  
浜松市東区西ヶ崎町1590-1  
http://www.megabass.co.jp/

### MEGABASS VITAL RAIN SUIT (メガバス ハイタルレインスーツ)

フィールドでの機能を追求し、あらゆる状況下でも快適な着心地を実現したレインスーツ。



### XPOD (エクスポッド)

調整可能なコマンドビル（下顎）と、連動して取り込まれる水圧・水量が調整されるウォーターインテークにより、ルアーのアクションを変えられる世界初トランスフォーメーションプラグ。グッドデザイン賞受賞作品。



### RETGRAPH FIII (リトグラフFIII)

「ルアーまでの距離」「着水点の水深」「ルアースピード」の3ファンクションがリアルタイムで分かる、デジタルインジケーターを搭載したリール。感覚にたよっていた釣りから、再現性の高いデータフィッシングへと進化した、NEWテクノロジー搭載リール。

# 育てる使命

明治時代からの歴史を数える浜名湖の養殖うなぎは、やがて「浜名湖うなぎ」を定着させる全国ブランドへと成長した。

しかし近年は、流入する海外産、不透明な景気状況、

突として襲う自然災害、後継者不足など、

さまざまな懸案が発生しており、

養殖を営む事業所は減少の一途を辿っている。

そんな今、養魚漁業の若き後継者は何を思い、

考えているのだろうか。



考えているのだろうか。

養殖の世界に入って4年。先々代から続く養殖池と技術を引き継ぐ決心をし

たのは、丸新養魚3代目・新村典丈さん

だ。話を伺うと養魚漁業に対する思いや

「浜名湖うなぎ」への情熱が、言葉の端々

に見て取れる。

「機械を使ってシステムチックにやっている他県と比べると、浜松の養鰻池はど

こも規模が小さく、アナログな方法で養殖しているところばかり。ただ、僕はそ

こが浜名湖うなぎの伝統だと思っし、

特長だと感じています。毎日自分の目で

魚を観察し、天候や日の当たり方を

チェックして、その日単位で作業の優先

順位やエサの量を決めていく。長年の経験と職人的な感覚が必要ですが、その分

やりがいのある仕事ですね」。

丸新養魚ではエサにこだわっているという。通常は稚魚用のエサとして使用されるタラを、出荷するまでずっと与え続けているのだ。「コストは高くなるが、うなぎの成長度合いを促し、味の甘みや深みが増すなど、うなぎの質の向上にも影響しているという。こういつた代々続く、丸新らしさをしっかり踏襲することが、現在、典丈さんが全力を傾けている部分だ。

「今はおじいさんの代から続けてきた方法を父から盗むことに注力しています。35歳までには一通り吸収して、その段階になったら自分らしい養殖のやり方や、時代の流れに沿った方法などを模索してみたいと考えています」。

将来の夢は？の質問に、「健康でおいしいうなぎを育てたい」とシンプルに答えてくれた典丈さん。淡々と、静かに輝く使命感の裏に垣間見るのは、浜名湖うなぎブランドを牽引する若き担い手の出現と、未来である。

## 養鰻業 新村 典丈



有限会社  
丸新養魚  
tel 053-592-1083  
浜松市西区雄踏町山崎3622-1

浜名湖養魚漁業協同組合

tel 053-592-0123  
浜松市西区馬郡町2465  
<http://www.maruhama.or.jp/>

丸新養魚が育てたうなぎをはじめとする「浜名湖うなぎ」は、組合の直営店やインターネットから注文可能。



12~1月にかけて、仕入れた稚魚(シラス)を放流し、ビニールハウス内の養鰻池で丁寧に育てていく。毎日2回ほどエサを与え、定期的とうなぎを取り上げて選別し、池ごとにサイズをそろえる作業も重要。太く、大きくなった成魚は7~10月に出荷する。

## PROFILE

### 新村 典丈 (しんむらのりたけ)

丸新養魚・3代目  
2007年4月から家業の丸新養魚に入社。「養殖業は力仕事だと思って」と、入社前は運送などの仕事で体力作りに励んでいた。趣味は、最近始めたピアノとテニス。28歳という年齢は、所属する浜名湖養魚漁業共同組合で最年少。

# 1時間50gへの想い

お茶王国・静岡で唯一、  
てん茶加工施設を持つ  
「天竜愛倶里ふぁーむ」。

浜松のてん茶※ブランドを

確立し、煎茶の価格低迷や

後継者不足による茶産業の

衰退に歯止めをかけた

農業生産法人である。しかし、

お茶離れやペットボトル化が進む現代、

茶産業にはまだまだ課題が多い。

そんな中、天竜愛倶里ふぁーむの

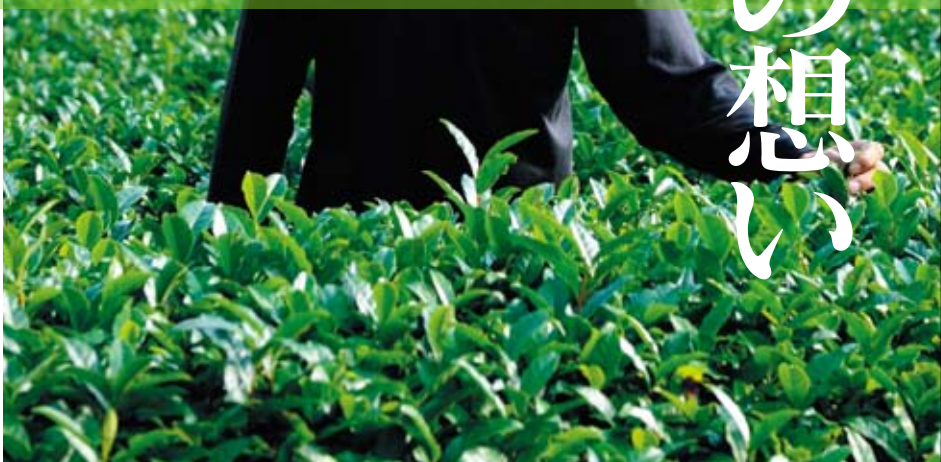
創業者である父とともに、

未来を見据えた茶作りに勤しむのが、

てん茶界のホープ大石成身さんだ。



茶農家 大石 成身



見渡す限り緑の海。浜松市天竜区の

空気が澄んだ標高550mにある茶畑。

昼夜の気温差が大きい高所で栽培され

るてん茶は、色や風味の良い高級茶葉に

なる。流通している抹茶の多くはセラ

ミックボールを使った粉砕方式で大量生

産されているが、天竜愛倶里ふぁーむで

は、最高級の茶葉を最高級の抹茶に仕

上げるため、あえて石臼を低速で廻す方

法を採用している。1つの石臼から挽き

だされる抹茶は、1時間にわずか50g。

それでも、なめらかさと舌触り、お茶本

来の味と香りをより際立たせるために、

この方法を優先しているのだ。

「大量生産している温暖な地域には

太刀打ちできないので、この天竜地域だ

からこそできる高級茶葉を丁寧に作り

上げ、質で勝負していきたい。それと抹

茶は外国人にインパクトが強いので海

外輸出にも力を入れています。同じ天

竜抹茶でも外国人用パッケージには

『FUJIMA MATCHA』と表記し、

芸者さんのカラフルなイラストを入れ

るなど工夫をしています。健康志向が

高まっている日本人に対しては、栄養価

の高い抹茶をそのまま飲むだけでな

く、他の摂取方法も提案していきたい  
ですね」。

お茶の生産に関する知識やノウハウは

もちろんのこと、移り変わる環境やニ

ーズに敏感に反応し、柔軟に対応できる見

極め力・判断力をつけていきたい、とも

語る大石さん。就農してわずか3年目、

組織の中で最年少ではあるが、お茶に対

する誠実さ、生産だけでなくニーズに合

わせた販促まで考慮する精神は、「尊敬

している」父の系統をしっかりと引き継い

でいる。将来、浜松の茶産産業を牽引して

※てん茶…通常のお茶とは異なり、茶葉を採らず、そのまま乾燥させた抹茶の原料となるお茶。

## PROFILE

大石 成身 (おおいし なるみ)

農業高校卒業後、県立農林大学校を経て  
20歳で就農。父が経営する農業生産法人  
「天竜愛倶里ふぁーむ」の一員としてお茶の  
生産から加工までを行う。趣味はスノー  
ボードと釣り。近々ゴルフも始める予定。



道の駅「くま水車の里」で販売中

## 山の抹茶、天竜抹茶

天竜愛倶里ふぁーむの高級抹茶「山の抹茶」  
「天竜抹茶」。天竜産の一番茶のみを使用し  
た抹茶で、濃緑色、なめらかな舌ざわり、奥深  
い旨み、甘み、香り特徴。各1,050円



天竜愛倶里ふぁーむ

tel 053-923-0083  
浜松市天竜区西雲名530

